

# 広袴便り

吉川俊雄 書  
(町内会長)

'05冬  
新春号

広袴町内会  
会報第4号

東京都町田市広袴町町内会

発行責任者

会長 吉川俊雄

〒195-0056

東京都町田市広袴2-17-19

〈電話・FAX〉

042-735-5464

広報部長 鈴木正子

〒195-0052

東京都町田市広袴町438-7

編集長 中村一行

〒195-0052

東京都町田市広袴町522

〈電話・FAX〉

042-735-4894 (鈴木)  
042-734-9706 (中村)

## 町内会館建設を目指して

町内会長 吉川俊雄

**明** けましておめでとございます。会員の皆様におかれましては輝かしい新年をお迎えになられたことと心からお慶び申し上げます。

## 自然災害の多かった昨年

**さ** て、昨年は異常気象による自然災害が多発し、記録的な猛暑の連続や大型台風上陸による風水害ばかりでなく、新潟県中越地震発生時の土砂災害、道路の寸断、集落の孤立と、改めて自然災害の恐ろしさを認識させられた多難な年となりました。今年はずっと平穏な年であつて欲しいものです。幸い当町内会は大過なく、新会員を日々迎えることも出来、昨年11月末現在では57世帯の会員数となつて参りました。今後も新会員数が増え続ける中、町内会としても、街の安全安心の向上を目指すのとはより、生活文化、福利増進も図り、明るく元氣な町づくりに邁進したいと思ひます。



いよいよ町内会館の着工です。

ところで、町内会館建設につきましては16、17年度執行予算算の中で、中規模会館建設補助金として4千万円が承認になっており、本年7月完成を目指して建設に取掛かりたいということ、既に先号にてご報告済みであります。建設委員会も昨秋立ち上げ、本年7月末完成を実現すべく今年度中の着工を目指し、鋭意準備を進めているところであります。

## 建設予定地

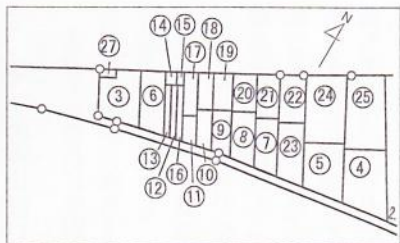


会館予定地の広域地図

**既** にご承知の方々も多いと思ひますが、会館用地は120坪程、広袴公園の南側に位置する場所、地域のほぼ中心となる利便性の高いところです。

1) の会館用地取得は、鶴川第二土地区画整理事業の中で、当時の諸先輩や地権者の方々の町内会館に対する熱い願望が基となつて実現したものです。その当時、天王山といわれた道祖神の土地移動がありました。各地権者(23名)は徐々に分筆に合意し、平成元年、財産提

供のご承諾をいただくと同時に当該用地を町田市に寄付し、それでやつと中規模会館建設に向けて大きく前進することが出来ました。ここに深く感謝し、厚く御礼申し上げます。



公図写し

## 多目的に使えます

**建** 設する中規模会館は木造2階建て、総床面積約60坪、1階に多目的ホール21坪を中心に、小会議室、炊事室、男女別トイレ(身障者用を含む)、玄関のバリア・フリーを取り入れていき、2階は和室8畳間2室、トイレ、炊事場等を設ける他、階段も出来る限り昇降の柔らかな造りとし、高齢者に優し

## 資金計画にご協力ください

**建** 設資金計画は中規模会館補助金4千万円、備品購入補助金百万円、町内会積立金百万円が現在の総資金原資となっております。建設費は何か4千万円の範囲で納めるとしても備品を百万の補助金で全てまかなうのは難しい見通しです。特別資金が必要になるような時は不足資金補填のご協力を願ひます。その際は別途会計報告をした上でご相談させていただきます。

## 楽しみにしててください

1) の他にもまだまだ様々な問題点も多々ありますが、完成に向け、全力で進んで参りますので会員皆様方のご理解とご支援をお願い申し上げます。

最後になりましたが会員皆様方のご健勝とご多幸を祈念申し上げ、新年のご挨拶と致します。

本年度は町内会の中に5つの部会が設けられ、それぞれその目的に沿って活動を行いました。そこで各部長さんにこの1年の経過報告と新年度に対する展望を語っていただくことにしました。

## 総務部

通称の事務局であり、総務部長が事務局長を兼ねることとなっています。定例の部長会の会議資料の作成を行ない、その会議が実効性のあるものになるよう心を砕くわけですが、相当な作業量となり、かなりの負担となります。会議は原則月1回開催しましたが、一つのプロジェクトが議論され、一定の結論とか方向性が示されると次回の会議はそれを基にさらに議論を深化させて行くのが理想であるにも拘らず、現実には必ずしもそのように前進せず、後退したり、全く脈絡のない方向に行ったりします。それを何とか方向性を保つように目配りし、町内会としての活動方針策定の舵取りをするという責任の重い役割です。

町内会の規約改正を総務部原案として部長会に提示しました。会員がこの1年で約200名も増え、部会も新設され、町内会活動もより複雑多岐に亘る中、より判りやすく、明快且つ総合的な規約が必要となっています。その目的達成の為、現行の町内会規約の微調整も検討されましたが、全面改正の方がその目的を達成できると判断し提示された原案です。部長会、役員会で承認されましたら(臨時)総会に付議されることとなります。皆様一度現行規約がどうなっていたか目をお通しになって下さい。

(中村一行)

## 環境・衛生部

平成16年度、新たに組織された専門部会の一つとして環境・衛生部が設けられました。この部会では健康住み良い環境とゴミの廃棄に関わる衛生関係を扱うことを目的として活動を進めています。

あまり普段は目立たない部会ですが、11月23日に行われた広袴町内会(クリーンアップ行動)のようにときどき表にでてくることがあります。

今後皆さんのご協力が必要とすることが多々あると思いますがよろしく願います。(宮田洋一)

## 広報部

今年度新しく組織された専門部会の一つとして広報部が設けられました。広報部の主な役割は、広袴便りの編集発行です。

広報部員の協力により今年度も広袴便りの無事発行することができました。皆様の取材協力があってこそ広袴便りの発行が可能です。今後取材など皆さんのご協力が必要です。今後ともよろしく願います。(SUZU)

## 文化部

### 盆踊り大会

地元有志の方達の方で開催されてきた歴史ある広袴盆踊り大会。今年には文化部と大勢の会員の協力で準備致しました。(盆踊り準備マニュアル作成)

当日、生憎突然の夕立に合い、各係員はじ

め、模擬店担当者は、ずぶ濡れになりながら、家の厨房にも立ったことが無い人達が笑顔で大奮闘。お互い親近感を確認し合う事が出来たのは雨のお蔭かもと話していたが、町内の懇親に素晴らしい成果だった。

又、雨の中にも拘わらず傘を差して模擬店の前に並んでくれた多くの人達にも励まされ実に印象深い、楽しい盆踊り大会でした。

### 運動会 平成16年鶴川地区市民運動会 会場 野津田競技場

大会名誉会長に寺田和雄町市長、他に国會議員と市議會議員を来賓にお迎えしての大運動会の準備係として、吉川会長と文化部から大塚、小林、河合、津志田の各氏が9月18日(土)、10月2日(土)の説明会議と用具の点検準備に出席し、広袴町内会として、鈴割、魚釣り競争、物干しリレー、一人三脚他、色々な競技に参加し子供会共々楽しむと準備しましたが、10月3日(日)の運動会当日、朝から生憎の大雨の為中止となり非常に残念でした。

来年は青空のもと競技に参加して楽しみたいですね。(小林豊)

## 防災・防犯・交通部

### 参加型から参画型へ変身!

①自主防災訓練で町田市消防署・鶴川出張所の指導のもと、次の3点を再認識し、共に行動しました。

1. 自助—自分の身は自分で守る
2. 共助—町会が協力して自分の町は自分で守る。

3. 公助—消防署・消防団・市役所・警察署の行政機関が連携する。

②町内会の各関係団体と4回にわたり連絡協議会を実施しました。この中で町田市生活安全担当参事(兼)安全対策課長長岡彰氏を講師にして協議会また「防犯」の集いを実施したことも広袴の町の安全安心を守る為によかったと思っています。町田市にパトカーが1台導入されたのは長岡彰氏の安全対策の推進によるものです。

③わんわんパトロール活動の推進。目下30名の会員の方々に協力いただいています。1. 人の目が大事—犯罪をよせつけない町づくり。

2. 今後、町内会で安全を守るパトロール隊を組織することを検討。

④交通に関しては具体的に部員に調査を依頼し、道路の改善、信号機や新しい標識の設置等の要望を取りまとめました。総務部で要望書が作成されたならば直ちに町内会長名で関係当局に提出予定です。

⑤旧くて新しい街、広袴。住人の名前と顔を覚えあつて子供達と共に明るく住みよい町内を作りましょう。御協力を御願致します。

⑥この1年間の活動の結果を評価され、町田市消防署から感謝状と防犯パトロール用の拍子木をいただきましたのでご報告致します。

(西川文二)



感謝状

## 町内会費納入有難うございました。

町内会費（年4000円）の納入につきましては、多くの皆様から格別のご協力を頂き、誠に有難く御礼申し上げます。平成16年度として納入頂きました皆様への領収案内を兼ねてご報告申し上げます（平成16年10月31日現在）。今年度の予算は95口の伸びを見込み、町内会費で450口（1,800,000円）でございましたが、新規会員の増加はそれ以上となり、10月末現在で525口（2,051,100円）の実績となりました。組・班毎の内訳は次のようになります。

組 班	町内会会員数	計
1 組	33	¥132,000
2 組A班	16	¥64,000
2 組B班	21	¥78,300
2 組C班	18	¥66,800
2 組D班	13	¥52,000
3 組A班	13	¥52,000
3 組B班	11	¥44,000
3 組C班	14	¥56,000
4 組A班	13	¥52,000
4 組B班	16	¥64,000
5 組A班	14	¥56,000
5 組B班	13	¥52,000
6 組	22	¥88,000
7 組	30	¥120,000
8 組	11	¥44,000
9 組A班	20	¥84,000
9 組B班	23	¥90,400
9 組C班	16	¥62,400
9 組D班	16	¥64,000
10組A班	9	¥36,000
組 班	町内会会員数	計
10組B班	14	¥53,500
10組C班	8	¥32,000
10組D班	10	¥40,000

12組A班	9	¥34,100
12組B班	15	¥53,200
12組C班	11	¥44,000
12組D班	12	¥42,000
13組A班	14	¥56,000
13組B班	8	¥28,500
13組C班	6	¥24,000
14組A班	8	¥29,400
14組B班	13	¥48,900
14組C班	12	¥48,000
14組D班	15	¥53,400
15組A班	10	¥40,000
15組B班	16	¥58,200
15組C班	2	¥8,000
合計	525	¥2,051,100

会計 中村一行



## 納涼盆踊り大会の報告

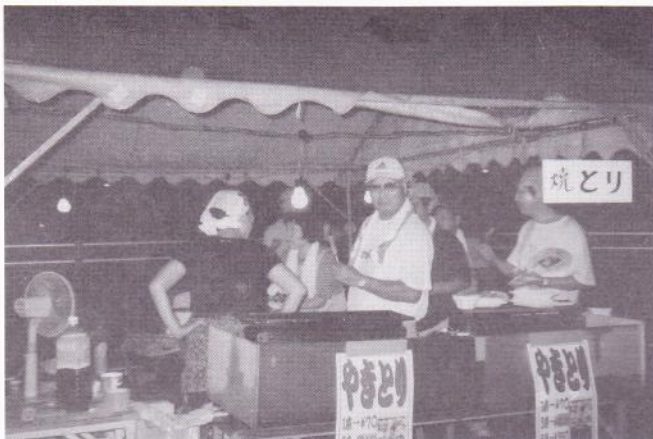
平成16年の夏は記録的な猛暑で、うだるような暑さが連日続き、最高気温の記録が何十年ぶりに更新されたとの報道が印象に残る。ただ暑い夏でした。しかし、そんな中にも僅かながら雨の日はありました。その雨の日に選ばれたのが何と広袴町内会納涼盆踊り大会の当日だったのです。平成16年の盆踊りは開始から僅か1時間で中止となった盆踊りでありました。

本来でしたら、楽しい盆踊りの一夜の様子をこの紙面でお伝えするところなのですが当日に至るまでの準備の様子(本文の大半を占める)を交え以下に報告します。

広袴公園を会場として行われる盆踊りは今年で2回目となります。鶴川第2土地区画整理事業終了に伴う住居表示の変更により新たに設定された広袴3丁目ハウスメーカーの建売住宅が数多く建てられ、その入居者の増加により年々会員数を増やしている広袴町内会にとって敷地の広い広袴公園は実にありがたい会場であるといえましょう。

盆踊りは、先祖の供養という本来の意味合いは薄れ、日頃お世話になっている近隣の町内会役員との交流や住民の親睦を深める数少ない機会として活用されており、市内各町内会にとつては一大イベントとなっております。

広袴においても盆踊りは町内会最大のイベントと位置付けており、事前に役員会が開催され、班長、組長の皆様方も交え幾度となく打ち合わせを行いました。その結果、役員会において当初見送られていた焼き鳥などの屋台については、新旧住民の親睦を深めるため



(写真提供・3組渡邊修氏)



に不可欠との意見が大勢を占め、検討の上復活することになりました。屋台運営は、買出し、仕込みとすべて段取りよく盆踊りを迎えることが出来たのですが、あいにく雨で開始から1時間で中止となってしまいました。しかし、その後も販売を続けた結果多少ではありましたが収益をあげることが出来ました。

槽建て、花作りなどの準備のためお力をいただいた消防団、消防後援会、子供会、広業会そして町内会々員の皆様ありがとうございました。太鼓の練習、踊りの練習ご苦労様でした。ただただ感謝の盆踊り報告でありました。

(森本亮平)

盆踊り大会の収支報告としては20万円の赤字で組成された予算(収入70万円、支出90万円)に対し、7万円の黒字実績(収入82万円、支出75万円)となり、一般会計に繰り入れられました。収入82万円の内、72万円はご祝儀で、残りの10万円は模擬店収入でした。ご祝儀72万円の内訳は3万円が1名、2万円が1名、1万円が23名、5千円が79名、3千円が13名でした。

(中村一行)

## 運動会の報告

平成16年の行事はどれも天気に恵まれず、ことごとく中止となってしまいました。運動会も早朝からの雨で中止となり、報告のしようがありません。

大会前日の説明会、また当日会場となった野津田公園に向き景品受領配布に奔走された役員の方々ありがとうございました。当日昼過ぎまで手配した200食の弁当の処理に

集まって頂いた子供会、班長、組長の皆様方ありがとうございました。ただただ感謝の運動会報告でありました。

(森本亮平)

## 移転・変更・訂正・新入会員 (平成16年10月31日現在)

入会  
2組B班 能勢 洋也  
2組C班 今井 昭哉  
加倉井弘年  
西野 勉  
塙 康典  
2組D班 阿波根 治  
黒澤 正一  
9組B班 田島 光明  
9組C班 山田 豊久  
10組B班 長谷川陽介

12組A班 紺屋 富夫  
12組B班 黒岩 淳一  
佐々木政行  
田中 昭雄  
百瀬伸一郎  
山田 理  
12組D班 岡田 清喜  
加藤 正  
平松 宣  
13組B班 鈴木 康雄  
高田 誠治

14組A班 高野 欽也  
房安 英輔  
14組B班 加藤 潔  
14組D班 大久保和彦  
15組B班 坂上 恵美  
塚田 秀樹  
武藤慎太郎  
吉川 和秀

会員の消息

カクト  
谷岡克昭

退会  
9組A班 片山 有史

### 訃報

謹んでお悔やみ申し上げます。  
5組A班 大塚 豊氏 平成16年10月28日ご逝去

### 鶴川第二小学校40周年記念 敬老給食会に参加して

この度鶴川第二小学校40周年記念敬老給食会に16名も招待して頂きました。感謝の気持ち一杯です。人間愛に溢れた中村雅子校長先生との出会いのお陰でこのような子供達との素晴らしい触れ合いの場を持つ事ができました。子供達と給食を共にしながら語り、剣玉、駒回し、おはじきを一緒に遊び、教え教えられる楽しいひと時を過ごしました。音楽の流れる中、ミュージカルのひとこまの様でも、給食を頂きながらの子供達との会話の中でも、すくすくと成長している未来多き子供達にとって、健全な家庭環境、人間対話のいかに大切かを痛感しました。子供の中に、月一回の広袴公園の清掃に二年間も参加して下さる春本彩さんを見つけました。家庭環境と共に地域の環境も大切で、その自然環境が美しければ、そこに住む人々の気持ちも美しく、しっかりと強くなると、中村校長先生と話し合いました。子供達から沢山のお手紙綴りのメッセージを頂き、大変に嬉しかったです。表紙にはミッキーマウスの絵が、裏面にはブルートを中心にした犬の絵が描かれています。感謝と希望に満ちたかわいい子供達の想いが沢山伝わってきて、私の人生の宝物となりました。



(写真提供・9組高橋 淳氏)

ロシアの国民詩人プーシキンは「母校はその人々がどこへ行くとも故郷である」と。私達

敬老会も出来る事があれば応援させて頂きたいと中村先生にお返事しました。「強く、正しく、朗らかに」給食会に参加しての気持ちです。

(西川文二)

### 広袴公園、鶴川台 せせらぎ緑道を守る会

広袴の鳥(その二)

今、広袴公園の調整池は冬の渡り鳥で賑わっている。渡りの鳥達は10月初めから姿を見せ始めた。マガモ、オナガガモ、コガモ、ハシビロガモが見られる。年中いるアヒル、カルガモも鴨の仲間、アヒルはマガモを人間が飼いなしたものである。公園のアヒルは、芹が谷公園に捨てられたものを、市の公園緑地課の依頼で放したものを。マガモは全長59cmでオスの首が青いので「アオクビ」とも言い、首に白い輪がある。

夏に帰るそのねたのか7月の終わりからオス4羽、メス1羽が棲みつき、アヒルと交尾している。オナガガモは尾羽と首が長いのが特徴。オスの頭部は濃いチョコレート色、胸は白色で75cm、メスは53cmとこぼりで地味な褐色。コガモは全長37・5cmの小型のカモで、



オスの頭部は紫色で目の周りとその後方は緑色。体の中央に白い筋があるメスは褐色で地味な色。ハシビロガモはクチバシの幅が広い。カモ、オスはカラフルで頭部は光

沢のある緑色。胸は白色、下腹部は茶色。メスは灰褐色で地味。オス、メスとも50cm  
毎月第1土曜日午前8時30分から清掃をしています。皆様のご参加をお待ち致しています。

(山本隆治)

### 広楽会 敬老祝い会

9月20日、広袴会館において敬老祝い会が行われました。

広楽会の森吾一会長から「日本国民の5人に1人が65才以上といわれています。皆さんが元気で敬老の日を迎えられ、心から祝福申し上げます。ささやかな会ではありますが、有意義に懇談頂ければと思います」と開会の挨拶がありました。

次に西川文二副会長から来賓の方々の紹介があり、その中でスーパージョーの小山健二店長が「広袴の町内会がとても活発な活動をされていることに驚き、感心しています。今後健康で、安全性の高い商品を提供してゆきたいと思っておりますので宜しくお願いします」と挨拶があり、また鶴川第二小学校の中村雅子校長からも「毎年、敬老給食会を子供たちが楽しみにしています。子供たちに愛を伝え地域を愛することを教えながら学校経営に励んでゆきたいと思っております。どうぞいつまでもお元気で長生きして頂きたいと思っております。本日はおめでとございます」との祝辞がありました。

続いて一宮千恵小学校教諭から森会長に代表で花束が贈られ、広楽会の大嶋孝之幹事が寺田和雄町田市長からのメッセージを読み上げました。

それは、「地域での安心・安全の確保が行

政にとつての大きな課題となっている昨今、今年4月に町田市生活安全条例を制定し、自治会や町内会、各団体と協力し、治安維持活動を開始しました。広袴地区の町内会組織が目覚しい活躍と発展を続けていますが、敬老の日を迎えられたみどりクラブ広楽会の皆さんの益々のご健勝とご活躍を心より祈念致します」という内容でした。

また、大塚伸彰市議会議員からも会員の上杉孝三郎氏を通じて祝福のメッセージが伝えられ、子供会の吉川 牧会長が「子供会の子供の数と同じくらい、広楽会の会員数が多いのにびっくりしました。明るく元気で、長生きして下さい」とお祝いの言葉が寄せられ、その他大勢の出席者からも祝辞が述べられました。

その後、森会長から石井知恵さんに米寿のお祝金が贈呈され、最長寿で91才の阿久津トミさんの音頭で一同、乾杯の運びとなりました。

紅白の大段幕に掲げられた「夢心ゆくまで話し合い」の文字通り、出席者全員が、テーブルに用意された料理や飲み物をいただきながら、和気あいあいと語り合い、和やかに楽しい午後のひと時を満喫致しました。

(滝口博子)



(写真提供・14組吉澤一美氏)

## 広袴子供会「どんど焼」

月2回となりました子供会の資源回収が徐々に増えており、皆様の御協力に感謝致します。

今年も鶴川第二小学校創立40周年にあたり、10月16日には記念式典・祝賀会が行なわれました。ベルマーク収集やバザー参加、鶴川の昔の様子をお話しして頂くなど、皆様の暖かい御支援のお陰で子供達の思い出に残る1年となりました。また、前述の収益で「輪車練習用の手すり」が学校に贈られました。

新年早々に子供達が参加する行事に「どんど焼」があります。これは左義長(さぎちやう)という正月に行なわれる火祭りのことです。その言葉の由来は、唐土(とうど)が「どんど」と訛り「どんど」と転化したようです。

1月14日または15日に、刈り取り跡の残る田などに長い竹を3・4本組んで立て、その年飾った正月飾り・書き初め等を持ち寄り、達磨を頂上に付け焼きます。これは正月飾りで出迎えた歳神を、炎と共に見送ったり縁起物を天に返すという意味があるそうです。この炎で焼いた餅を食べると無病の効果があり、書き初めを焼いた炎が高く上がると字が上達すると言われています。広袴では、子供達が正月飾りを回収(御飾り集め)しますが、その時に御飾りと一緒に頂くお年玉も、どんど焼きの行事を行う資金としてありがたく頂いております。そして先端が3本に分かれている樫の木に上新粉で作ったお団子を1個ずつ刺して焼き、食べます。

年明けのこの行事を、皆様と楽しく過ごす事ができますよう願うと共に、今後子供会

に御協力頂きますよう、宜しく御願致します。

(柳本 マリア)



(カット・谷岡克昭)

## 自主防災訓練

7月25日(日)午前九時半から広袴公園にて自主防災訓練が行われ、約180名の参加がありました(昨年は約170名)。

自主防災組織の総務班長の宮田洋一氏が司会進行役をつとめ、初めに西川文二防災部長より「今回の広袴自主防災訓練でお互い仲良く助け合い、名前と顔を一人でも覚えて帰って頂きたい」と挨拶がありました。また、東京消防庁の桑原氏から「都では早くから自主防災組織が結成され、定期的な訓練をしています。連日の暑さで3日前から1日81人が熱中症で病院に運ばれています。テントや木陰に入りながらお互い協力しあって訓練して欲しいと思います」との呼びかけがありました。



アルファ-米吹き出し訓練風景

今年、3月に火災予防条例が改正され、10月から新築する家や、10㎡以上の増改築の家は全部屋に警報機を設置することが義務づけられました。万一、災害が起きたら電気ブレーカーやガスの元栓を締めて避難し復旧時にはガスや電気の点検をしてもらってから使用する事、携帯電話は電池切れになるので、防災袋の中に笛を持ち、瓦礫などに負傷者がいたら警笛で知らせる助けを求め、自分たちの町は自分たちで守るという意識を持ちお互い協力し助け合うこと、8月29日にも総合防災訓練があるのでぜひ一人でも多くの人に参加してほしいということ等の注意もありました。

防災訓練終了後、参加者全員にアルファ-米とお茶、子供たちにはお菓子も渡され、解散となりました。

(滝口博子)

都内で年間7000件の火災が発生し、1位は放火、2位はたばこの不始末、3位は天ぷら鍋等の火災が原因になっています。町田市も年間200件の火災発生で放火がトップに挙げられていますので、不審者を見たら通報して欲しいとのこと。また、玄関や物置はしっかり戸締まりする、家の周囲に燃えやすい物は置かない、夜は玄関の電灯、門灯をつける、ゴミは決められた日に出す、車、オートバイのボディーカバーは狙われやすいので、カバーをするなら防災の物にするなどの注意がありました。その後4班に分かれて、119番通報、三角巾や毛布でタンカを作る、消火器の訓練を順番にし、起震車も体験しました。



119番通報訓練風景

# 郷土史の発掘と継承―屋号の考証

## 【第五回】「やと」

本稿は平成16年の春、大塚 豊氏にインタビューしてお聞きしたものである。その後大塚氏が体調を崩され、惜しくも10月末にご逝去されたので、ご本人に本稿を校正していただくことは残念ながらできなかった。痛恨の極みである。

「やと」とは通常「谷戸」と表現する。前号で「なぬしさま」を調べた時に教えを請うた8組の金子欣三氏（日本地名研究所、事務局長）によれば、武蔵、相模の辺りでは、江戸期には「谷」と単独で書いてヤトと読ませるのが一般的であった。（例 谷川＝ヤトガワ）。ヤトは本来の意味は「水流のある湿地」を意味する言葉。水流のある湿地は谷地形の所に多いので、自然に転化して「谷地形」を指す語になり、「谷戸」と表記されるようになったとのこと。

広袴から能ヶ谷にかけての真光寺川低地も、南北を丘陵に囲まれているので、広い意味では「谷戸」。現に能ヶ谷では、上・下の集落に対して、真光寺川流域の集落を「裏谷戸」と呼んでいる。つまり「谷戸」は谷地形を呼ぶだけでなく、講中（村組）を指すこともある言葉であるとのこと。

大塚 豊家も元々は現在のお宅をバス道路側から見て右手の小道を少し下った谷あいの処にあった。現在の地形から判断すると谷という程の地形ではないように思われる。が、6丁目のバス停から団地側一帯は団地造成以前は大きな山であった。その地形を基に考えると充分谷あいの地形であったといえ、そこに居を構えておられたことから「やと」と呼

ばれるようになったのであると思われた。と



大塚 豊家

ところが、大塚 豊氏のお話ではそういうことよりも「やと」とは「矢登」と表現し、その理由はその旧宅周辺で矢尻が大量に出土したからであるとのことである。

昭和39年、日本住宅公団施工による鶴川団地造成事業が実施されることが決まった時、鶴川遺跡群調査団というのが急遽編成され、造成工事に先立つ昭和39年8月から昭和40年6月まで4次にわたる発掘調査が21ヶ所の遺跡を対象に行われた。その内、重要な遺跡としてJ地点とM地点とが注目された。このM地点とは広袴遺跡と元々言われていたところで縄文時代の後期、晩期の遺物を出土することで学会にも知られていたが、その時の調査で新たに1号から5号までの竪穴式住居跡が発見されている。大塚 豊氏の居宅界隈で発見されたという矢尻達、このM地点と、どう絡んでいたのであろうか……。

## 【第六回】「ひがし」

ご当主、吉川喜章家の現在の地理的位置関係からは一体何故「ひがし」というのか、また、何に向かつて「ひがし」と称したのか皆目見当がつかない。ところがお話を伺ってみると新たな事実が分ってきた。喜章氏から数

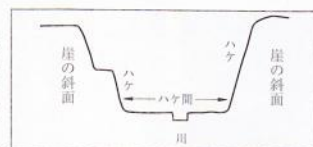
えて何代か先までは今の6丁目のバス停の辺りに住まれており、今とは全然別の処に住まいであった。



吉川喜章家

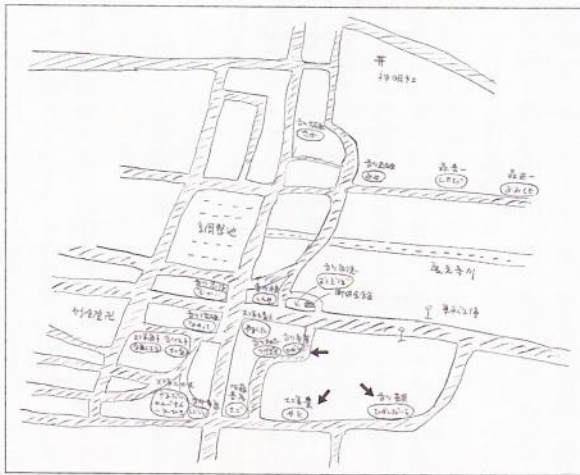
そこで団地造成以前の広袴の旧地形をもう一度おさらいしてみる、そもそも広袴は何故そういう名前

となったのかについてはいくつか説がある。その地形が袴の形状であるという平面説はよく聞かぬが、実際にはそんな形状をしているようには見えない。それに対して立体説というのがある。吉川正雄氏の先代である吉川泰長氏に対する新聞取材記事が現存するが、昔の広袴村の中心であった吉川正雄氏宅の前に立つて南の団地方向を見た場合、山頂を削られて台地状になった団地の建つ丘が、かつては今より10米以上も高く立ちはだかり、その後方には同じ高さの丘が控えていた。左右（東西）は真光寺川と田んぼだから、前の山は男性用袴の腹にくる部分、左右に流れる川と開けた水田が横割れ、後の山は袴の腰板とみなして袴と立体的に考えたもので、「広」はこのあたりで一番小さな面積の村だから、逆に威張って広い袴と誇張したもの、というのである。また、これらの説とは全く異なる説もある。既に何回もご紹介している8組の日本地名研究所、事務局長、金子欣三氏の説によれば、段丘の崖を一般に「ハケ」といい、広袴の原地形を古い地図から再現して考察すると、真光寺川とその沿岸低地が東西に走り、その北側は崖地形（ハケ）を示し、南側（現



ハケ略図

以上その3説の是非はさておき、「ひがし」はその旧宅の存在した位置が広袴村全体の中で地理的に東に位置した為にそう呼ばれるようになったと思わざるをえない。高説であった。



在の団地側）も崖（ハケ）の形を見せていた。南と北にハケがあり、その間に真光寺川低地がある地形を、つまり「ハケの間の地」と見るわけである。その「ハケ間（ま）」が比較的広がったのでヒロハケマ。ハケマの「ケ」は容易に音韻変化して「カ」に代わるが多。即ちヒロハケマ→ヒロハカマとなったのではないかと推察される。漢字表記はあとから宛てられたものと見る。（地名の漢字は殆どがあとから宛てられたもので、地名由来を考える際には、一たん音に戻して考えなければならぬ）との高説であった。

【第七回】「ひがしだら」



吉川英男家

「ひがし」がその地理的理由により、そう呼ばれるようになったとすれば、「ひがしだら」はまさに平面的な地理的位置関係と立体的な地勢的關係により、そう呼ばれるようになった模様である。今の真光寺公園行バスに乗り、平和台入り口から坂道を上がり、三叉路の信号になっている辺りが広袴と能ヶ谷との境目であるが、この道路は昔からあったものではなく、田畑の真ん中を切り開いて近世に造られている。その為、広袴では、その道路の両側の土地が同じ地主の所有になっていることが多い。自分の土地を分断するように道路が開削されたからである。そのような道路が開削される以前、能ヶ谷から広袴の方を見上げると、急坂を上りきったところから広袴が始まり、そこが平坦な地形であるのが特徴的であったらしい。現在のバス停「東平」の背後に広がる栗林に今もその面影が残っている。その平坦地の広袴側東端に吉川英男家が居を構えておられ、東端であるだけでなく、そこが平らな地形でもあったために「ひがしだら」と称されるようになったと思われる。

(中村一行)

この町にこんな人(第四回)

織物(タペストリー)作家

竹田淑子さん

広袴町103



作品の説明

広袴の地で長い間、タペストリー(色糸で織った部厚い壁掛け)の制作に精力的に取り組んでおられる織物作家の竹田さんをお訪ねしました。天井の高いアトリエの中には大小の織機がところ狭しと並び、中でも最大のもは特注で備えられた幅3メートル奥行2メートルもある巨大なものでした。

この日の竹田さんの説明は、日本古来、弥生時代から伝わる「いざりばた」と称する織作業そのものを腰にまとった実演をしながらのものでした。

タペストリーの制作と一口にいつても、その材料や工程によって多様で、材料について言えば、動物繊維のウールと植物繊維のサイ

ザル(麻ロープの原料)などに分けられます。例えば、ウールでタペストリーを作製する場合は、まず羊の原毛を入手し先染めします。染めには化学染料と自然染料があり、そのどちらかを使用し必要な色の数を染めます。同色でも濃淡をつけた場合はその数だけ染めます。染める時は仕上りを想定しその作品に求める陰影や質感を考えながら行い、染め糸作りだけでも相当な時間と労力が必要です。サイザルを染める時は更に染色前の力仕事が大変で、繊維を漂白剤と洗剤で洗う時は風呂場などで、振ったり、踏んだり、叩いたりし、それをタンクに入れ煮て染色し色止めをしておきます。

次は染めた繊維を紡いで糸にし、織機にかける工程です。前もって織る作品の設計図を作ります。その図はグラフ状の柘目割になっており、それを見ながら原画に沿って織機で縦糸と横糸を織込んでいきます。これらの工程で竹田さんの思いと感性がまさに浸透し織込まれていくわけです。

こうして織られた竹田作品は巨大なものが多く、嘗ては3カ月もかけて長さ6メートル、重さ100キロもあるタペストリーをアシスタントなしで、ウンウン唸りながら織り、その様は格闘技のようなものだったそうです。竹田さんの作品は一見男性的で力強く雄大な一方、女性らしい温かさもその色彩や織りの中に感じさせてくれます。作品からは天に向かって昇天していくような勢いと向上心が伝わってきます。

戦後幼い頃の竹田さんの学校のノートは字でなく絵ばかりで埋まっていたそうです。高校卒業の頃、当時はまだ織物に関する情報もなく、絵画を中心に学ばれ、彫刻家の故竹田京一氏とご結婚後、しばらくは絵画を教え、

その時、ひょんなことから織物を知り、ぐんぐん惹かれていき、その時が30歳の頃で、それ以来織物一途の創作活動が続いているそうです。

織物には絵画と違う物の見方、思考の仕方があり、昔流の職人気質もあって、からだ全体を動かすことが好きな竹田さんの性分には大変マッチするようで、確かにその作品からは体の動きを感じるような心を揺さぶられるようなものが伝わってきます。

今までの作品は、銀座ギャラリー21や草月会館の個展で紹介されると共に、各種建物のロビーの壁面を飾っています。

代表的な作品は、ハワイ島にある国立天文台ハワイ観測所、鳴沢ゴルフ倶楽部、横浜ランドマークタワー、大田区池上会館などであり、特に大理石の壁面には温かさをもたらす装飾物として好まれています。

私たちの近くでも、現在「風の谷の幼稚園」に作品が展示されております。是非ご覧になり竹田さんの作品の力強さと温かさにふれてみられてはいかがでしょうか。

風の谷の幼稚園にある作品





最近、竹田さんは草木染の奥深さに魅せられ、染色の面から「藍色」に関心が深く、ご自分の庭に実際にその植物を植え草木染をしたいとおっしゃっています。広袴の自然の中にはまだまだ沢山の草木染の材料があり、栗のイガイガ、どんぐり、こぶな草など自然ならではの色彩が生み出されるそうです。近くの田圃の水は鉄分が多く洗うと鉄媒染となつて黒味をおびるそうです。草木染には絹が合い染色されたポケットチーフも数枚拝見しましたが、一つひとつ染めた時の加減で色合いと風合いに違いがあり、水と光と風の賜物とも言える草木染独特の技がそこにはありました。

竹田さんは最後に「染色は化学染料なら希望通りの色が簡単に作れる。しかし自然の染料はその時により生み出されるものに変化がある。私は自然から色をもらつて作りたい。年令と共に自然と一体化したものを作る心境に自分を変化してきました。歳とれば体力は落ちるけど毎日続けていると体が自然に動く、自分の望むものは直ぐ出てこないけれど、更にと意欲的に挑戦し自分の構想に近づきたい、そしてそこに新しい物が生まれクリエイティブの面白味もでてくる。もし私が織物に出会っていなかつたら人生の辛い事を楽しい事に変えることは出来なかつたでしょう」と語られました。

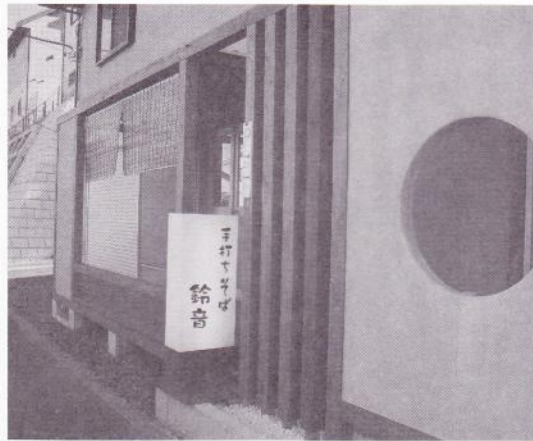
織物と共に年を重ね好奇心を広げ、今日も若々しく創作の毎日をごさされている竹田さん、その人生の思いは織物の中に凝縮されているのを垣間見ることができました。

現在和光高校で織物の教科を持たれ、自宅アトリエでも織物教室もなさるそうです。興味のある方はお気軽にご連絡ください。

(佐々木幸子・熊田道夫)

## 広袴のお店紹介 「鈴音」こだわり手打ちの蕎麦店

洒落た構えのお店に入ると、BGMのジャズが流れ、木の香りが快い高級な雰囲気になります。カウンター越しにはガラス張りの向こうに、ご主人の鈴木雄治郎さんが手打ちをする姿が眺められます。白木の大きなテーブルがドーンと置かれており、私たちを迎えてくれます。このテーブルでは楽しい仲間と集まつて、日本酒でも酌み交わし語らいながら、蕎麦を楽しめそうです。



入口

鈴音の蕎麦は材料から作り方まで、その徹底したご主人のこだわりが窺えます。

蕎麦粉は当日使用分を前日に店の厨房の電動石臼で挽きます。石臼は低回転に設定し、蕎麦の風味を失わないようにするそうです。蕎麦の実が産地で冷蔵保存してあるものを週に数回取り寄せるとのことです。現在は茨城

県の有機栽培による常陸秋蕎麦を使用しています。製節は二年本枯れの本節のみ使用し、だしをとる直前に製節削り器で削ります。さらに昆布は透き通つただしの取れる利尻昆布、椎茸は国内産どんこ椎茸です。合鴨は茨城の鴨の農場にて放し飼いで飼育されたものです。チエリパレーダックと言います。品種改良されたもので柔らかく、コクがあり、肉質脂質ともに優良です。入荷後に一週間冷蔵庫で熟成させたもので、冷凍物ではありません。薬味のわさびは中伊豆から直接仕入れ、辛味大根は築地の最良品を使用します。さらに飲料水、料理用水はすべてアルカリイオン水です。当日の朝に手打ちされた蕎麦は木箱にいれ冷蔵庫に保存するという心遣いです。厨房にある大きな釜は其の周りがさらに大きな釜で覆われたような構造で、外釜では器を暖められようになっています。このそば釜の構造は江戸時代からのものだそうです。八割蕎麦粉の蕎麦はその大きな釜の中を泳ぐようにさつと40秒程ゆでるそうです。そうすることによって蕎麦の風味を最高に引き出す事ができるそうです。

こうしたこだわりの蕎麦作りを始めることになったご主人は以前コンピュータの仕事に従事されていましたが、お仕事の傍ら、手打ち蕎麦を作り、食することが趣味でした。数年前に高血圧による体調不良がきっかけで仕事から退き、広島で達磨という蕎麦道場を開いている高橋邦弘氏の元で修行の後、奥様と現在の鈴音を立ち上げました。店を開店するに当たり、場所を探しておられました折に、元々気に入っていた鶴川街道に近く、道路幅のゆつたりとした鶴川街道に物件があることをネットで知り、直ぐ決定し、現在の位置に今年4月に開店の運びとなりました。

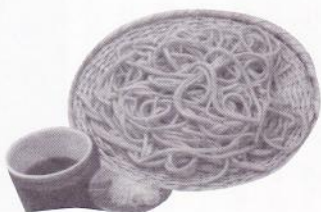


オーナーの鈴木ご夫妻

ご主人が修行中、練習で打つた蕎麦を毎日食していたところ、3ヶ月でコレステロール、中性脂肪の数値が平常値になったとのこと、日本の味である蕎麦は健康には欠かせないものだったのでですね。

住所 所…広袴2・13・13・101  
電話 話…042・736・9859  
定休日…(月・第一火曜日)  
営業時間…昼11時30分―14時30分  
…夜17時―20時30分

(佐々木幸子)



# 随想「五行歌」

熊田道夫

空が青いと言って  
ひとやすみ  
海がきれいと言っては  
ひとやすみ  
年寄二人の初詣

松下 親

広袴の皆さん、明けましておめでとーござ  
います。冒頭の歌は、90才のおばあちゃん  
が作られた歌ですが、これは最近文芸の表現  
形式として注目されている「五行歌」という  
歌の形式で詠まれたものです。五行歌は、和  
歌や俳句のような五七五の語数や季語の制約  
もなく、現代の日本語で自分の思いを五行の  
中に自由に表現できる自由詩で、創始者は歌  
人の草壁焰太先生です。  
ちよーと二年程前、私はこの歌づくりに魅  
せられて何の知識もなく最初に作ったのが

高みより  
丹沢連峰は  
大洋のクジラ  
光る背びれは  
白い富士

熊田道生

これは冬早朝、広袴の上にある鶴川台尾根  
緑地を散歩している時、西にみえる富士山と  
丹沢の山々を鳥瞰して詠んだものです。ご披  
露するような出来ではありませんが、広袴の  
地に住んで30年、この恵まれた自然環境を何  
かに表現したいとかねて思っていた私には、  
歌は意外と簡単にできました。7才児が作っ  
たこんな可愛い歌もあります。

お母さん  
ガミガミ  
おばあちゃん  
ブツブツ  
ふりかけみたい

中村公子

老若男女を問わず誰にでも気軽に作れるの  
が、この五行歌のいいところで現在全国的に  
広がりつつあります。新聞の歌壇欄にも短歌  
や俳句、川柳とならんで掲載されるようにな  
りました。

一番うまい酒は  
コップから  
受け皿にあふれた  
こぼれ酒だと  
居酒屋通のはなし

向井文丸

歌を書くことよって得られる生き生きと  
した精神がこの創作ブームの源にあります。  
みなさんもこの広袴の自然環境を背景に歌づ  
くりをされたら如何でしょう。「誰の心の  
中にも名作がある」が五行歌の合言葉。

着ぶくれた子が  
ベビーカーから  
チラと私を  
見上げた  
春はもう少しだからね

稲岡みち子

広袴の野山にもやがて春の季節が訪れます。  
鶴川台から真光寺公園にのびる尾根緑地を家  
族いっしょに一度歩いてみましょう！  
きつと新しい発見があり歌ができますよ。

「五行歌」のお問い合わせは6組熊田まで



## 編集後記

新年明けましておめでとーございませう。  
新しい年を迎えて広袴便りも第四号を発行  
することが出来ました。編集委員一人一人の  
大きな力があつたからだと思えます。  
私には好きなものが三つある。一つは、冬  
の夜空にきらめく星を見ること。心が安らぎ  
穏やかな気持ちにさせてくれる満天の冬の星座。  
もう一つは、風に揺れどこか寂しそうなコ  
スモス（秋桜）の花、ギリシャ神話ではコス  
モスは秩序整然とした調和、平和、秩序のあ  
る世界と言う意味。  
そうして、最後の一つは人（子供達）カメ  
ラレンズをとうして覗いていると、無邪気で純  
真で憂いのない気持ちが顔いっぱい現れ私  
の気持ち温かく優しく包んでくれる。私たち  
の住む広袴も秩序と平和を守り調和のある住  
みよい明るく素晴らしい街づくりを目指して  
行きましよう。  
広袴便りでは皆様からの、ご意見・ご要望  
等をご提案いただけたら幸いに思っています。広  
袴便りが情報発信基地になれるように編集委  
員一同今年もがんばりますので宜しくお願い  
いたします。（SUZU）

次号は平成17年7月発行の予定です。

発行日 平成17年1月1日  
発行所 東京都町田市広袴町町内会  
発行人 吉川俊雄  
編集人 秋永茂男 飯塚明子 上杉孝三郎  
大川節子 熊田道夫 佐々木幸子  
滝口博子 竹野義明 谷岡克昭  
中村一行 西川文二 広瀬俊夫  
森本亮平 山川広司 吉澤一美  
印刷 (株)サン・メールサービス  
(写真・鈴木正子)